イムマヌエル教報

2016. 5

1947年7月1日第三種郵便物認可　2016年5月5日（毎月5日発行）　イムマヌエル綜合伝道団

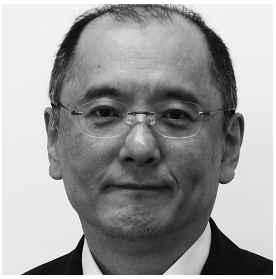
No.838

IMMANUEL

聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、地の果てにまで、わたしの証人となります。（使徒1:8）

「支援金」をもって教会同士は一つとなる！

教団代表　藤本　満



使徒の働きにパウロが第三次伝道旅行に終止符を打って、エルサレムに戻る場面があります。彼はエペソの教会の信徒を集めて、ミレトという港で告別説教をして、エルサレムに行く堅い決意を伝えます。

「いま私は、心を縛られて（別訳では、御霊に縛られて）、エルサレムに上る途中です」（22節）。

パウロも教会の人々も危険を感じていました。しかし、彼はどうしてもエルサレムに上って行きたかったのです。なぜでしょうか？

＊

パウロがエペソに滞在している間に記された第一コリントでは、彼は人々に「聖徒のための献金を集めるように」指示しています（一六章）。また第二コリント八～九章を見ますと、パウロはマケドニアの諸教会でもこの献金を始めていたことがわかります。

集められた献金を携えてのエルサレム行きをパウロはローマ人への手紙でも記しています。

「今は、聖徒たちに奉仕するためにエルサレムへ行こうとしています。それは、マケドニヤとアカヤでは、喜んでエルサレムの中の貧しい人たちのために醵金（きょきん）することにしたからです。」（一五・25～26）

状況はこうです。エルサレム教会は、ユダヤの国粋主義者たちの弾圧にあっていました。その教会の貧しい人々、困窮している人々をなんとか助け、励ましたいのです。パウロはこのために、ギリシャと小アジアの教会を巡って訴えてきました。

しかも、パウロはここで、この献金が喜んでなされるべき義務だとも言っています。

「異邦人は霊的なことでは、その人々からもらいものをしたのですから、物質的な物をもって彼らに奉仕すべきです」（27節）。

霊的なものとは福音です。福音を最初に聞いて伝えてくれたエルサレム教会の人々に、今度は異邦人教会が物質的なものをもってエルサレム教会の必要に応えたい言っているわけです。

＊

当時、エルサレムの教会と小アジアの教会・ギリシャの諸教会は、ほとんどなんの交流もなかったことでしょう。しかし、パウロは何とかこうした機会を通して、教会が一つであること、ユダヤ人の教会もギリシャ人の教会も、同じキリストを信じる信仰によって一つであることを、体験してもらいたいのです。

パウロは、教会は一つであること、ユダヤ人の教会も異邦人の教会も、関東の教会も九州の教会も、インマヌエルの教会も他教団の教会も、実は主にあって一つであることを体験してほしかったのです。

そうして、救いはキリストを信じる信仰によること、そしてその信仰によって、私たちはだれであっても互いに兄弟姉妹であること、つまり福音の真髄を味わってほしかったのです。たかが献金ではありません。そこに初代教会全体を左右するほどの、教会の一致、福音の一致、教会の交わりがかかっていました。

目次

「支援金」をもって教会は……藤本 満……1
伝道サポートシステム、神学院後援会構想……2
災害対策委員会、霊想、中高生キャンプ委員会……3
海外トピックス、国内局コラム、新しい聖書……4
関東南ブロック、ジョンソン先生追憶……5
広げた翼……6 ～8
聖宣神学院報……9 ～11
公報、消息……12

Immanuel

伝道サポートシステム

教会のわざとして積極的な挑戦を

システム担当　川嶋直行

「あなたがたは、『刈り入れ時が来るまでに、まだ四か月ある』と言ってはいませんか。さあ、……目を上げて畑を見なさい。色づいて、刈り入れるばかりになっています。」（ヨハネ四・35、36）

＊

今こそ「伝道」に力を注ぐ時ではないかと思います。近年、福音の持つ豊かさが再認識されて来ました。伝道と社会的責任を二元論的対立構造として見るのでなく、十字架の贖いは両者に及ぶものとして、より包括的なあり方が強調されてきました。東日本大震災を通して、援助協力の大切さを教えられました。その理解は、私たちにとって、確かに必要なものでした。

しかし、相対的に、「救霊」への情熱が失われているとしたら、教会が本来最も大事にしなければならない使命を見失っているのかもしれません。主イエスは、弟子たちに大宣教命令（マタイ二八・19、20）を残して天に帰って行かれました。パウロは「みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くても」（Ⅱテモテ四・2）と勧めています。伝道は、いつの時代も教会の中心的な使命です。

救われる人が興されることが、教会に活気を付けます。祈りながら伝道し、一人でも二人でも救いに導びかれるなら、それは教会の喜びとなり、活力となります。救霊こそ、教会の「食物」です。主イエスは、「目を上げて畑を見なさい。色づいて、刈り入れるばかりになっています。」と言われました。救われる魂は、既に備えられており、受救を待っているのです。

国内教会局の伝道サポートシステムは、教会のわざとしての伝道を支援します。まず、御心を求めて祈りましょう。現在、教会が直面している課題は何か、地域の必要は何か、教会に与えられている賜物は何か、それらをどう活用するか、牧師と教会員が話し会う中で、教会としての宣教のビジョンが与えられて来ると思います。

＊

概要については、各教会にご案内した通りです。春の教区会で立候補してください。そして、秋の教区会に、企画書と予算書を作ってご提出ください。「うちは無理」とか「関係ない」と諦めず、一人の救われる魂を夢見て、チャレンジしてみてはいかがでしょうか。

聖宣神学院から

「BTC後援会」構想の素案

＊

聖宣神学院院長　河村従彦

BTCは創立以来、全国の皆さまの「BTCサポート」（個人献金）、「神学院献金」（教会からの献金）によって支えられてまいりました。今までのお祈りとご支援に心から感謝申し上げます。

ところが今のシステムでは、加入しておられる皆さまとの接点がないため、謝意を表明したり、現状をご報告したりする機会がありませんでした。さらに、年会をBTCで行わなくなり、心理的距離が遠くなったかもしれません。

本構想は、これらのことを背景に、神学院と、教会・サポーターの皆さまとのより丁寧な関係作りを目指して提案されました。そのことで、安定的な運営体制を作ることができればと願っています。

▼基本構想

後援会は、神学院の働きに賛同し、献金に加わっておられる方で構成します。素案では、「BTCサポート」に加わっておられる方は「個人会員」、「神学院献金」に加わっておられる教会・組会などは「団体会員」になります。

また、全体をとりまとめる後援会役員会（仮称）を構成します。信徒中心のこの役員会に運営全般をお願いできればと願っています。

さらに、ネットワークとして、各教会に神学院との橋渡しをしてくださる方（世話人・仮称）を置くという案もあります。

▼後援会の役割

後援会は、教団集会や各地の聖会などで、神学院のアピールをします。また、教会に神学院の情報をお伝えします。たとえば、後援会員には、年2回程度、教報とはまた違った観点から、写真の報告や祈りの課題を盛り込んだニュース・レターをお届けします。

さらに、一時的機能として、70周年記念プロジェクトのための支援プランの策定も期待されます。

▼信徒の主体的参画を願って

本構想は、信徒の方が担ってくださらなければ機能しない、むしろ担ってくださることに希望を見いだしてゆきたいと願いつつ祈っています。発起人会では、素案についてさらに検討します。また、後援会が機能している他の神学校の後援会の方にお会いし、情報をいただくことも考えています。

BTCにとってどのような後援会がふさわしいのか。神学院の歴史において決して小さな動きではありません。次の時代の神学教育環境を整えるために、そして教会を担う方が送り出されるために、皆さまの格別なるお祈りとご協力を賜りますようお願い致します。

日本福音連盟から

6月19～21日 東京大会開催

ホーリネス信仰と教会をテーマに

桂町教会　矢木良雄

日本福音連盟（JEF）にインマヌエルが加盟して3年。今回のJEF東京大会は、中目黒教会を会場に開催されます。

講師には、それぞれの教団を代表する先生が当たられます。19日（日）の聖会Ⅰはホーリネス教団委員長の中西雅裕先生が、20日（火）の聖会Ⅱは基督兄弟団の理事長である小平牧生先生がメッセージを語られます。21日午前のセミナーはナザレン神学校校長の石田学先生が、ピレモン書から教会についての講演してくださいます。これらの集会にはどなたでも参加できます。

JEF東京大会は、日本聖化協力会（JHA）が後援をしています。両者の協働のすばらしい機会となるように願っています。

災害対策委員会から……

熊本地震について　緊急のお知らせ

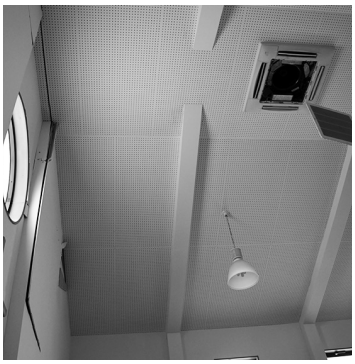
災害対策委員会　蔦田直毅

去る4月14日に熊本市を大地震が襲い、余震の続く中で本震が発生し、震源も大分に及びました。

熊本教会の末弘先生ご夫妻は守られましたが、教会は天井のエアコンが落下しました。全壊してレスキュー隊に救出された会員宅もあり、教会員の親族が亡くなるなど、大きな被害が出ております。一方で飲料水の備蓄なども、されており、ライフラインの復旧も早かったとのこと。教会員により、教会の片づけもされました。皆様のお祈りに感謝しておられます。

連続しての大地震による精神的な疲労や余震への不安もあり、なお、お祈りを要します。

教団では支援献金を募っています。お祈りとご協力を宜しくお願いいたします。



ペンテコステの霊想

ペンテコステの収穫

ウェスレアン宣教師
ロビン・ホワイト

聖書に出てくるペンテコステ（「七週の祭」とも呼ばれます）は重要なユダヤ人の祝祭の一つです。新約聖書でこの祝日が大切な新しい意味を持つようになるのは、聖霊が来て、イエスの弟子たちに満ち、イエスの働きを引き継ぐ力を与えたからです。イエスは聖霊のバプテスマを約束されました。（使徒の働き一・5）弟子たちが祈り待ち望んでいたペンテコステの日にこの約束は実現しました。

ペンテコステは「刈り入れの祭」「初穂の日」としても知られています。聖霊が来られるのにこれほどふさわしい時はないでしょう。聖霊が来られると、ペンテコステはまさに霊的収穫の日となりました。弟子たちが蒔いた信仰と祈りの種もまた実を結びました。イエスの昇天後、「……みな心を合わせ、祈りに専念していた。」（一・14）とあります。さらに、「五旬節の日になって、みなが一つ所に集まっていた。」（二・1）ともあるように、彼らはひたすら待ち望み、ついに聖霊を受けました。

また、ペンテコステはイエスご自身が地上でまかれた種の収穫でもあります。ヨハネ一二章24節で、「一粒の麦が……もし死ねば、豊かな実を結びます。」とご自分の死を予告されました。この結ばれる実とは、福音、救い、神の国と教会を指します。その日、エルサレムに集まっていた数千の人々が福音を聞いて救われ、教会が誕生し、神の国はみずみずしく、力に満ちたさまで到来し、キリストのうちにある救いと新しいいのちの大収穫が行われました。

この故事が今の私たちには無関係と考えてはなりません。クリスチャンである私たちはペンテコステの収穫そのものです。ペンテコステの故に、イエスの約束の通り福音は地の果てまで広がり、私たちは福音を聞き、信じ、救われる機会を得ました。聖霊は今も世に生き、働いておられます。

日々の生活、家族、教会の中で私たちが蒔く祈りと宣教の種は本当に大切です。必ず結実があると神を信じることができます。たとえ罪との戦いに苦戦していたとしても、また救いを祈っている相手が心を開いてくれそうになく、また懸命に取り組む福音の働きに結果が出なくても、あきらめないでください。望みがあるからです。

あなたに与えられた種に対して忠実であってください。収穫の時は近いのですから。

スタッフ・トレーニング・キャンプ

2016年「とにキャン」発進

GACHI ～本気で向き合う～
8月9日～12日

中高生キャンプ委員会
細田恒太郎

中高生キャンプ「とにキャン」が始められてから8年が経過しました。「とにキャン」開始当初から「スタッフ・トレーニング・キャンプ」を持ちたいということは委員会の中で話されて続け、これまでもキャンプセミナーや、とにキャン期間中の分科会で学びの時を持つなどしてきましたが、やはり体系だった学びの必要性、キャンプ期間中ではなかなか持つことのできないスタッフ同士の交わりの必要性を感じ、第一回目のスタッフ・トレーニング・キャンプを開催することが許されました。

今年は3月20日（日）21日（月）と二日間にわたり、聖宣神学院を会場に開催され、遠くは、四国香川から近隣の教会まで15名の兄姉方と牧師6名が参集し幸いな交わりと研修が持たれました。カリキュラムは6クラスあり、今回は前半の3クラスが開催されました。とにキャンの目的（目指すもの）から始まり、「神の奉仕者とは」、「グループリーダーの心得」など、実践的かつ具体的な内容が盛り込まれました。研修の合間には、バーベキュー（今年は鳥の丸焼き）があったり、夜は近くの銭湯に出かけたりとそれぞれに楽しい時も持たれました。

最短2年で全カリキュラムを取得することができますが、取得者には修了書とともにキャンオリジナルの記念グッズを進呈する予定です。引き続き、中高生の信仰の養いのため覚えてお祈り頂ければ感謝です。また、今年は8月9日（火）～12日（金）に第9回とにキャンが開催されます。テーマは「GACHI ～本気で向き合う～」です。今回は外部からの専任講師を招かず、キャンプに参加する牧師がテーマに沿って各集会を担当します。お祈りに覚えてくださると共に、中高生を励ましてお送り頂けますと感謝です。今年もGACHI楽しいプログラムを鋭意企画中です！

海外トピックス

■イエメンで高齢者施設に武装集団、修道女ら16人死亡

紛争が続くイエメン南部アデンで、カトリック系の高齢者施設が襲撃を受け、修道女4人を含む16人が死亡したと、バチカン（ローマ教皇庁）が明らかにした。

武装集団は3月4日、施設の建物に突入した後、1部屋ずつ回って計16人の手を縛り、頭部を銃で撃って殺害。死者のうち4人は、カトリックの「聖人」認定が決まっているマザー・テレサが設立した修道会『神の愛の宣教者会』のメンバー。2人はルワンダ人で1人がインド人、残る1人はケニア人。バチカンのピエトロ・パロリン国務長官は、襲撃を「極悪非道の愚かな行為」と非難した。教皇フランシスコも犯行を「無意味な虐殺」と呼び、事件が「全関係者の良心を呼び覚まし、武器の放棄や対話につながるよう祈っている」という。イエメンでは近年、イスラム教シーア派武装組織『フーシ』と政府軍の対立に乗じ、国際テロ組織アルカイダなどによる暴力が続発している。

■ネパールが国の祝日からクリスマス除外

人口の8割がヒンドゥー教徒のネパールで、政府が国の祝祭日から宗教関係の減少に着手。その一環として、クリスマスの除外を決めたことで、キリスト者側が反発している。シャクティ・バスネット自治相は、今回の決定がキリスト者を傷付けるものではなく、増えつつある祝祭日に歯止めを掛けるのが狙いだと『アジア・ニュース』に語った。

ただキリスト者が政府に撤回を働き掛ける余地はあるとしている。『キリスト教全国連合』のCB・ガハトラジ総幹事は「クリスマスが国の祝祭日で無くなれば、民間でクリスマスを祝うのが難しくなる。ヒンズー教徒などのためには83の祭典を認めているのに、キリスト者のためには1つもないことになる」と反発している。ネパールでは民主化運動の高まりにつれ、2006年に国王が直接統治を断念、議会はヒンドゥー教の国教を廃止する政教分離を決定した。その一環としてクリスマスが08年から国の祝祭日となった。11年の国勢調査ではカトリック、プロテスタント合わせて人口の1・5%を占めている。06年には0・5%である。

（平瀬聡樹）

国内教会局から

聖い教会を目ざして

互いが隣人である意識を

教会を建てる務めを頂いているお互いです。牧師として、役員や幹事、また教会員として、受けた使命や賜物をもって携わっております。霊的なつとめ、多様なプログラム、聖徒方の歩みも全て含まれます。文字通り教会の建物の維持管理も大切な取り組みです。神の教会の建て上げを目指しましょう。

この度は九州全域が大きな地震に見舞われました。被災された諸教会の先生方、聖徒方は信仰をもって危機と向き合っておられます。そのお姿から私たちは多くを教えられることです。もう一方で、震災の実害に対して同じ群れに属するお互いが担うことのできるところがきっとあります。よきサマリヤ人の喩えを用いて主が諭されましたように、お互いが教会レベルでも隣人となるとき、キリストのからだが危機にどのように向き合うのかを身をもって表すときです。教会の聖さはこのようなときにも表されます。

（蔦田崇志）

新しい聖書翻訳の報告……

2017年発行に向けて聖書翻訳作業が進行中

＊＊＊

新日本聖書刊行会　岩上敬人

聖書 新改訳2017
《サンプル版1》
旧約 創世記1－2章
レビ記1章
詩篇23章
ヨナ書1－2章
新約 マタイの福音書26章
ヨハネの福音書3章
ローマ人への手紙1章
翻訳 新日本聖書刊行会
発行 いのちのことば社

新日本聖書刊行会から先生方のお手許に『新改訳2017』のサンプル版をお送りいたしました。そこでは創世記、レビ記、詩篇、ヨナ書、マタイの福音書、ヨハネの福音書、ローマ人への手紙の一部を読むことができます。

注目していただきたい点がいくつかあります。一つは、全体の文体と語感です。訳文の約90%に改訂が加えられましたが、全体としては、これまで新改訳聖書に親しんできた私たちが違和感なく読めるようになっています。二つ目の注目点は、朗読したときの読みやすさです。これまでより、格段に読みやすい文章になっているはずです。三つ目は、聖書を開いたときの感覚です。サンプル版ですので、余白が広くなっていますが、それ以外は文字の大きさなど、実際に出版される聖書にできるだけ近いものとなっています。四つ目は、欄外脚注です。今回、脚注にも全面的に見直しが入りました。特に新約聖書は、旧約聖書との関連性を示す脚注が大幅に増えています。訳文だけでなく、脚注部分にも、聖書学における学術的成果が反映されています。

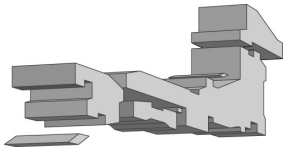
現在、急ピッチで第一校の編集作業が続けられています。漢字や表記の統一を中心に主任、編集長、日本語部会で作業が続いています。また脚注の改定作業も並行して続いています。様々な立場の読者モニターからも多くの意見が届けられ、それらを反映させる作業も行われています。

今年の秋には、すべての編集作業を終了して、第一校が完成します。そして膨大な校正作業に入ります。聖書ですから、乱丁や誤字脱字は許されません。注意深い校正作業ののち、最終稿が完成し、印刷、製本へと移ります。来年の秋も深まる頃には新改訳2017が書店に並び、皆さまのお手許に届くことになるでしょう。

＊

寸暇を惜しんで編集作業に携わっている先生方、また出版関係の方々を覚えてお祈りくださいますよう、お願い申し上げます。

国内教会局スクエア



関東南ブロックの近況と祈りの課題

ブロック・アドバイザー　蔦田 崇志

関東南ブロックに仕えて2年目になります。不足の多いご奉仕ですが篤いお祈り、ご教導、また御寛容を頂戴し、主にあって感謝申し上げます。「あなたはわたしに従いなさい」（ヨハネ二一・22）とペテロを招かれた主は、小さき者にも顧みを加えて下さり、主の民に仕える光栄を賜わりました。全身全霊をもって主を愛し、隣人を愛する務めを果たすことができれば幸いです。私事で恐縮ですが今年度異動を致しまして、担当致します諸教区と地理的に離れることになりました。このことが主の大切なご用の妨げとなりませんようにお祈り頂ければ感謝です。

▼東関東教区は新たに梅田昇先生を主事にお迎えしてスタートを許されております。教区には、今年卒業された館和人師が船橋教会に定住伝道師として任命を受けられ、また安食教会は島田貴子師を副牧師として迎え入れました。諸師方のこれからの御働きが祝されますようにお祈りください。

お祈り頂いております船橋教会の会堂建設は、すでに船橋駅近くのバイブルセンターの完成を見ており、各集会のために尊く用いられています。コミュニティーチャペルの本体工事も着工され、来年春の竣工を目指しています。週ごとの礼拝はいくつかの会場を使用しながら継続されています。一切のことが滞りなく進みますようにお祈りください。

▼東京教区（寺村秀嗣主事）では、蔦田崇志・美雪師、直子師が金沢教会に転出、岩上敬人師を武蔵村山教会へお迎えしました。白鳥教会は川嶋直行師を主任牧師として、また加藤光師を協力牧師としてお迎えしました。インターンとして御愛労頂きました橋本千尋師に感謝致します。新たに責任を担う先生方が教会員の方々とよき基礎を築くことができますようにお祈りください。

また昨年より林間聖会をお茶の水で行うようになりました。今年は梅田登志枝先生を講師にお迎え致します。神奈川教区との交わりの中で開催される8月の聖会が祝されますようにお祈りください。

▼神奈川教区（小川宣嗣主事）も各教会、多様な方法をもって伝道と教会の建て上げのために篤く取り組みを重ねております。特に今年度は韮山教会（大山郁夫師）が伝道サポートシステムを用いて年間の伝道プログラムを展開致します。春の教区会は当教会視察の意味も含めて韮山教会にて開催しました。初夏（矢木師）・秋季（小川師）に特伝、クリスマスの時期に音楽特伝礼拝（ホルン奏者宮田四郎氏）を予定しています。多くの祈りと教区の協力の内に始まりますます戦いに豊かな結実が与えられますようにお祈りください。

▼今年は他の諸教区同様、カルトや異端の対策、ハラスメントの問題などとも取り組んでいかなければなりません。デリケートなテーマと向き合いますので、上よりの知恵と洞察が豊かに与えられますようにお祈りを要します。一丸となって聖なる教会の建て上げを目指して参ります。

ご多忙極まる中で重責を担われる主事方の御霊肉が支えられますようにお祈りください。加えて教区内のご高齢の先生方のみ守りをお祈りください。今年も尊い御働きが豊かな結実に至りますように。救霊の実が各教会に与えられますように。「あなたはわたしに従いなさい」と招かれた主は、「わたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます」と約束をして下さった方であることをも覚えつつ。

追憶　故H・I・ジョンソン先生

2016年2月5日ご召天（享年91歳）

1952年に来日され、33年間日本で奉仕された故ハロルド・I・ジョンソン宣教師は、2月5日、短い闘病の後、91年の地上生涯を終えて天に帰られました。

IWF創設、最初の宣教師派遣のための初代総理とのインド訪問、『インマヌエル讃美歌』誕生のための版権取得の交渉など、先生の功績は枚挙に暇がありません。

先生はまず「讃美の人」でした。毎朝目ざめの時に讃美を一節心で歌ってから床を出られるのが習慣でした。召天の直前まで、2つの聖歌隊に属し、年間20回を越える演奏に加わられていました。

神学院、教会や聖会の奉仕に加え、ラジオやテープでの讃美は今も多くの人々の心に残っています。

昨年の第70次年会で力強く讃美された「朽つべき人なる我に」は、アイリーン・ウェブスター・スミス師の75歳の誕生日の席上、同師の愛された言葉のメモを片手に先生が即興で独唱され、エドナ夫人が伴奏されて生まれた讃美歌です。また『ひむなる』1番はジョンソン家の毎朝の家拝のために作られた讃美歌です。

先生はまた「人を愛する伝道者」でした。キャンピング・カーで地方に行かれると銭湯で地元の人と交わり、誰とでも親しく交わり、機会を用いて主を伝えられました。開拓期の福岡教会を助け、神学生たちを支え、日本語学校の校長も務められました。伝道者の仲人をされた披露宴の席で「決心者」が与えられたことは忘れられません。

そして先生は真の「宣教師」でした。ご長女とご次男は米国で牧師として、またご次女とご長男は日本で宣教師として、文字通り全家を挙げて主に仕えておられます。

ご主人の訃報を耳にされた、今は施設に入っておられるエドナ夫人の第一声は「今すぐに、私も主人と一緒に天国に行きたい」であったとのことですが、ご遺族のお慰めを祈りつつ、追憶と致します。

（蔦田直毅・記）

広げた翼

Immanuel His Wings

Department of World Missions

http://www.immanuel.or.jp/world/

世界宣教局

巻頭言

和解の使者として

世界宣教局
梅田　昇

テロが各地で起こり、その脅威が高まりつつあります。テロといかなくても、対立、紛争、争いが身近な所でも起こり、格別に家庭内事件が多発しています。使徒パウロは、「神は、キリストによって私たちをご自分と和解させ、また和解の務めを私たちに与えてくださいました」（Ⅱコリント五章18節）と述べています。

神との和解

争いと対立は、人間の堕罪とともに始まりました。カインは弟をねたみ、憤り、野原で石を投げつけ弟を殺害し、最初の殺人事件を引き起こしたのです。神との関係が断絶すると、人格がゆがみ、人間関係にトラブルが生じます。神から断絶した結果、人は高慢になり、バベルの塔を築き上げ、自分の名前を高めようとした結果、神はことばを混乱させなさいました。その結果、言葉が通じなくなり、人々は各地に散らされたのです。

神はキリストの十字架を通して、赦しと和解の道を備えてくださったのです。人は神との和解を必要としています。

人と人の和解

人間関係の難しい時代にあって夫婦関係、親子関係、また、近隣の方々との関係もあります。具体的な問題が生じてどろどろした関係になる場合もあります。

人と人とが和解するために自分の過ちを認め、謝罪することが求められますが、過ちを認めて、謝罪することは簡単ではありません。神の赦しを経験し、主の愛の中に生きることで、人と人との麗しい関係の土台となります。

和解の務め

主を信じ、神との和解を経験した信仰者には和解の務めが与えられ、キリストの使節とされています。私たちの周りには、人間関係に悩んでいる人や罪責感で苦しんでいる方々があります。信仰者はキリストに代わって、「神の和解を受け入れなさい」（Ⅱコリント五章20節）と招き続けるのです。宣教のメッセージは和解のメッセージです。福音を必要としている人々にあらゆる機会を用いて伝え続けましょう。

ZAMBIA

ザンビア

富澤　香＊2016年4月6日

3月7日、無事ザンビアの首都ルサカに着きました。背後にあるお祈りを感謝いたします。携帯やインターネットの回線また車の車検や道路の税金、車の免許更新そして車の保険に在留届けと、たて続けに沢山のことが必要でした。友人に助けられ感謝でした。

15日、ジンバに帰ってきました。4月2日に大統領が来られるということで病院中は、草刈りを始めお掃除や壊れたところを直すなどてんやわんやの中に入って手伝いました。私の仕事始めはペンキ塗りでした。米国人ボランティアのアシュリー（検査技師）と一緒に頑張りました。予定より1日早く来られ、プリグリム・ウェスレアンチャーチ・ザンビアのジンバ病院の新しい建物の献別式にお招きに答えてくださったもののはずなのですが、選挙をまじかのキャンペーンに時間を使われ2時間半遅れ、しかも肝心な献別する建物を見てくださらないで30分足らずで終わると言うような？なんともこれがザンビアかとあっけに取られて終わりました。私は、ゴミ拾いをしながら、初めて赴任して最初の仕事がゴミ拾いだったのを思いだし、ジンバではゴミ拾いで始まりゴミ拾いで終わるのかな？と思ったりしました。今は、病院のシーツ六百枚ほどに病院の印鑑を押す仕事に入っています。

3月4日から出始めた足の痛みにまいりましたが、何とか少しずつ慣れてきました。足の傷も小さくなってきてもう少しで塞がりそうです。お祈り感謝いたします。

ジェンボ宣教師館プロジェクトは、現在、家の中の壁塗りに入っています。7日に行ってきます。片側だけでも無事に建ちあがるように、進めています。主が始めてくださったプロジェクトですから主が建ててくださると信じて進めています。続けてお祈り宜しくお願いいたします。■

ZAMBIA

ザンビア

根廻恵子＊2016年4月4日

この度は、昨年5月からの1年間の一時帰国におきまして多くの方々との主にあるお交わりをいただきましたこと、心より感謝します。本当に恵みの時でした。第1期の奉仕を終え、初めての巡回報告ということで、緊張の中のスタートでした。何をどのように話せば良いのかと不安などありましたが、一つ一つ神様が示してくださり、行く先々で思いがけない恵みが備えられていました。欠けの多い者ですが、多くの方に忍耐を頂き、また暖かく迎えていただきましたことありがとうございました。ザンビアにいる時も祈ってくださっていることは大きな励ましでしたが、祈ってくださっている方々と直接お会いできることは更に祈りの存在を感じさせてくれます。また、直接お会いする機会が与えられたことによって、書面だけでは分かりづらいお一人おひとりの「生」の声を聞くことができ、具体的な祈りの課題を知ることができ感謝でした。全国すべての教会を巡回することは許されませんでしたが、各聖会や年会において多くの方々とお交わりが許されたことも感謝でした。

巡回によって様々な土地に訪れることが許され、改めて日本を知らなかったんだと気づかされ、日本の素晴らしさ・美しさ・楽しさ・美味しさを体感し、多くの恵みを感じるとともに、こんなにも神様は日本を愛しているんだということにも気づかされました。

帰国中に病院で働く機会も与えられ、日本での医療に触れることができました。元の職場であったことで、働きやすい環境でありましたが、ザンビアと違う医療体制に戸惑う場面もありました。次期の出発は5月27日になります。拠点がジンバからジェンボに移る予定ですが、日程は確定していません。引き続きお祈りに覚えていただければ感謝です。■

BOLIVIA

ボリビア

三森邦夫・加寿子＊2016年3月8日

「人間の願いや努力によるのではなく……神によるのです。」
（ローマ九章16節）

こちらはイースターの幸いな礼拝をみんなで持ちました。久しぶりに、ヤパカニからの兄姉方も参加できて、イエス様の復活をお祝いする愛餐会も持たれました。愛餐会の後は、これまでの私たちの働きを回想して、それぞれが信仰にまで導かれた証をして、大変恵まれました。その中で、ヤパカニからのアルフレッド兄の証は、みんなの心を打つものでした。彼は子供のころから貧しくて、学校も小学校5年までしか行けずいつも日雇いとして懸命に働いたそうです。外国にも出稼ぎし、ようやく家や車を持つ身の上になったときに、底知れない穴にはまったようなうつ病になり、いろいろな医者に診てもらいましたが解決がありませんでした。そんなある日、自分のライフル銃で自殺をしようと決心したそうです。たまたまその時、見覚えのある赤い車が目の前を横切ったというのです。それが私たちのトヨタ・ランナーで、その時その地区の教会のリーダーを集めて集会をするために、彼の家の前を通りました。彼は溺れる者はわらをもつかむといった気持でそのリーダーの集まりに入り、語られていた御言葉に耳を傾けその場で信仰を持ちたいと申し出ました。私たちの答えは、「救いをそんなに真剣に求めているのなら、もっと詳しく説明したいので、サンタクルスのセンターまで来るように」でした。彼は後日さっそく車で片道2時間半飛ばしてサンタクルスの我が家に二度続けて通い、ついに、自分の罪がはっきりわかり、悔い改めてイエスキリストの十字架を信じて救われました。続いて彼の奥さまもつれてきて、まもなく夫婦で信仰生活を始めたのです。彼の大きな変化は、家族親族のみならず、地域の人々が目を見張るほどで、彼を通して多くの親戚、友人が信仰に導かれました。「金持ちになることが私の夢でした。お金や物が自分の神様でした。でもそこには本当の満足と平安がなく虚しい気持ちが増すだけでした。」証しをしながら神様の恵みの中に生きる喜びのゆえに涙していました。私たちの赤い車がそこを通ったことが一人の人を永遠のいのちの道へ導くことになったのです。ただ神様の愛と憐みのゆえでした。

サンファンのT兄のことですが、亡くなる一週間前に、信仰に導くことができ神様に感謝しております。奥さまはボリビア人で、他の宗教を信仰していますが、ご主人の信仰を持つところを見ていたので、お葬式を私たちにしてほしいと申し出られました。喜んで準備しているところ、サンファンの村の責任ある方から「カトリック教会で式をします」との電話が入り断念することになりました。家族の願いが聞き届けられなかったことを残念に思い、早速たくさんのお花をもってT家を訪問、そこで家族だけで小さなお別れの時、お祈りの時を持つことができ感謝でした。天国での再会を待ち望むように、そのためにイエス様を信じるように勧めることができました。みんなで涙を流し、思い出話をして個人をしのぶことができ感謝でした。■

（写真は、アルフレッド兄。センター最後の礼拝にヤパカニから参加し、涙ながらに証してくださいました。）

KENYA

ケニア・テヌウェク

蔦田就子＊2016年4月6日

第2期頃にサマリタンズ・パース（メディカル・ミッション）を通して2年の予定で赴任された外科医のG先生ご夫妻がおられました。私の帰国の時期と重なったのでほとんど一緒に奉仕する機会はありませんでしたが、奥様も看護師で手術室のスタッフと良い働きをされていました。

テヌウェクでの経験の後、小児外科医の専門コースを取ることを志され、2～3年して資格が取れたらまた来ます、というのが当初の予定でした。諸事情により結果的には10年近く後になりましたが、昨年から小児外科医として今度はご家族で長期予定の赴任をされています。

今まで一般外科の先生が小児「も」するという形でしたが、これから本格的に「小児外科」として始動するにあたり、他の病院を見学することになりました。壊れやすい華奢な器械類をどのように扱うのか、スタッフはどのように訓練されているのか、特殊な物品の保管はどのようにしているのか、部屋を暖めるなどの工夫はどのようにされているのか、麻酔はどのように使い分け、スタッフを訓練しているのか、などなど前もって質問事項をリストに。ナイロビから1時間位に位置するキジャベ・ミッション病院とナイロビのゲートルード病院に連絡を。交通は7人乗りのG先生の車で。宿泊はWGM関係で。着々と準備がされているのを、1泊2日で主任と副主任、麻酔科主任と今度小児外科の中心になる予定のスタッフ2人が留守の間しっかりカバーしなくては、とお留守番モードで見ていましたが、副主任のお子さんがまだ小さいことから、急きょ代わりに私が同行することになりました。

もう一人、中期で加わっている小児外科のF先生も同行し、賑やかな道中となりました。この機会にピザなど初めての味にチャレンジしたスタッフもいました。キジャベ周辺の急こう配のがたがた道も、ゲートルード周辺の都会の混雑の中も守られて感謝でした。それぞれの背景や事情がありますから、そっくりコピーとはいきませんが、学ぶことの多い2日間でした。帰院してまた何やかにやと忙しい日々が続きましたが、主任のリーダーシップのもと、ちゃんとまとめの時間を取り、病院への提言までまとめられたのは感謝でした。それらを基調に、鍵の掛けられる戸棚作りなど少しずつ目に見える変化が進行中です。

数年前にPAACSプログラムを卒業して外科医となり、今度は南アフリカで小児外科の資格のために勉強するケニア人医師のA先生が戻られる頃には体制が整っていると良いのですが。この先生もビザなどの関係で4～5年待ってようやく今年南アフリカに行けることになりました。待機中、指導医としてだけでなく、心臓外科の際にはいつも中心になってくださっていたので、早くビザがおりますようにと祈りつつもずっといて頂きたい先生でした。

A先生が出国されてから、心臓外科手術を数件行うという話があり、件数や行われる日時が二転三転、再び人員確保や鍵となる医師の確保などストレスがかかりましたが、イースターにかかるぎりぎりまでの回復室の人員等、主任や副主任の采配で与えられ感謝です。将来的には、例えば他の帝王切開のようにいちいちバタバタせずにあっさり心臓外科の手術と前後の準備が出来たら、と思うことですが、もう少し先のようです。

恒例の医師の資格維持のためのセミナーが今年は海外でもたれるため、長期宣教師が一斉に不在となります。毎年そのカバーのため、各科の先生方がボランティアとして来てくださり感謝です。不慣れな先生方と現地スタッフとの関係について、長期宣教師から懸念があがっていましたが、そのために行われたミーティングの報告を受けた限りでは、新麻酔科主任が非常に信仰的にリードしてくださったことが伺われ、感謝です。■

■会計報告3月分

宣教献金　一、一一三、六二一円
月平均　一、五三二、六二八円

お祈りの課題

ケニア（蔦田就子）
◆臨時の心臓外科週が守られ感謝
◆本格的に始める小児外科手術への取り組みのため
◆正しい福音の伝達のために病院が用いられ、AGCが異端から守られるように

香港（鹿島）
◆受洗者の歩みの上に
◆深圳から広州へ邦人伝道の働きが広げられますように
◆引き続き日中関係が良好に保たれますように

カンボジア（蔦田緑乃）
◆KCCの伝道者、牧師夫人たちの信仰が純粋に神第一とされた信仰として成長するように
◆カンボジアの各地に所在する教会とその働きが御霊による救霊の実を多く結び、自給自足の教会が建ち上がるように
◆5月27日（金）出発する蔦田の宣教活動に主の御同行・御臨在をお祈りください

台湾（平瀬）
◆新年度の歩みが守られるように
◆信仰入門クラスのため
◆家族の健康と生活のみ守りのため。明里の高校受験のため

ザンビア（富澤）
◆宣教師館プロジェクトが、祝福のうちに進められますように
◆健康保持、足の痛み（腰からのもの）の軽減のため
◆ジンバ、ジェンボでのあらゆる働きを通して主の証しができますように

ザンビア（根廻）
◆日本での滞在が恵まれたことの感謝
◆出発までの準備が整えられるように

ボリビア（三森）
◆コトカ教会の成長のため
◆少なくなっているサンファン、オキナワ移住地の日系一世の救いのため
◆働きの締めくくりと、私たちの霊肉の健康のために

フィリピン（豊田）
◆本格的なシニプシップからロザリスへの引っ越しが始まっています。
◆6月から新学期が始まります。準備のため
◆事故、怪我から家族が守られますように

東京國際教会（蔦田康毅・由理）
◆4月2日に就任礼拝がもたれ、奉仕を開始された諸長楽牧師夫妻のため
◆4～6月に持たれる日本語による弟子訓練が祝されるように
◆日本語の働きのため、特に春のキャンプで信仰に立った中高生のために

聖宣神学院報

Immanuel Bible Training College

宗教家の「あいうえお」

院長●河村 従彦

「人の肩に載せ、……人に見せ」、「師と呼ばれてはいけません」（マタイ二三・4～5、10）

牧師は、自分がどう意識するかは別として、一般の方々、信徒の方々から見れば宗教家です。ですから、越えてしまったら恥ずかしい線があります。最初わからなかったのですが、失敗しながらそう思うようになりました。その線は、信仰的いのちという意味で、結構大切ではないかと思っています。

イエスさまは、他の人もやっているから気にしないと決めてしまえば気にならないような微妙なところに目線を向けられます。たとえば、「信仰については、人にああしろこうしろと重荷を課しても仕方ない」、「すばらしいことなら、人に見せ、人に自慢するのもいい」、「人から先生と見られて当然」というようなところに実は問題が隠れているという、やや手厳しい、そして心のツボにグッと迫って来る温かい目線なのです。

そのようなことを考えながら、大切なことを「あいうえお」にして、クラスで分かち合いました。

あ～焦らない。

い～威張らない。

う～嘘がない。

え～ええかっこしいをしない。

お～怒らない。恐れない。

おちゃらけない、も入りそうです。それで傷つく人もいます。

並べてみて、真の宗教家イエスさまだったらこうだろうなと思いました。しかし、自分に向き合えば簡単でないこともわかります。自分がしたいことがあると、それが信徒の方々の感覚とずれていても無理に説得したり、威張らないと思いつつ、いつの間にか人に指示し始めたり、説教するときに微妙に「盛ったり」、スマートに立ち回ることで「できる人」を演じたり……。イエスさまに生きる者は、自分に正直であるだけでなく、自分がどう見られているかに気づく感度も大切ではないかと思いました。奉仕者には、生涯通じて心で感じ続ける線がありそうです。

入学オリエンテーションの様子

神学エッセー

「青年とは」の定義

改めて「青年」を考える２

蔦田聡毅

「キリスト教教育」の中にある「青年」という科目の担当です。学ぶにあたって、ある程度範囲を定めたい、できれば定義づけたい所ですが、そもそも青年とは何歳から何歳までを指すのか。個人や教会によって、結構幅があります。

高校生から、という所が比較的多い中で、小学生でも洗礼を受けたら青年会という教会もあります。上は40迄、結婚迄、あるいは自分が青年と思っている間は、とか結構曖昧で、何が正解とも言えません。クラスの中には教育等の現場で経験を積んだ兄姉方が、それぞれ学んだ所を紹介して下さいましたが、万国共通ではありません。40歳と小学生では課題や対応にも随分開きがあります。青年は必ずしも年齢だけで区切れるものではないようです。しかも自分自身の「青年感」は、その人がどのような青年期を過ごして来たかによって、大きく左右されるとも考えられます。「青年とは」と定義したとしても、その途端「そんな定義に当てはまってたまるか」と、反発するのが青年なのかもしれません。

そんな話し合い、分かち合いを踏まえて、敢えて「青年とは」という定義を考え、発表し合いましたが、ノートの貴重な資料になりました。少しだけ紹介しましょう。

「青年期とは、制約を持ちながら、未知なる課題に対し、活動する力と発想を持つと同時に、悩みや失敗も多く、周りに流されやすい多感な時期。」

「青年期（青年）とは、多くの活動や経験をすることができる時に、失敗や問題を通して『自分とは何者か』ということを考え、様々な面で自立していく為の時期であり、その時期を一生懸命生きる人。」

「青年とは、将来に夢を持ち、失敗を恐れずにチャレンジしていく人たち。青年期とは、目前の課題に悩みつつも、出会う人や物事を通して乗り越えていく術を学んでいる時期。」

「青年期とは、現実の様々な厳しさに大いに悩みながらも、与えられている可能性を見出して、それらを表現し、活用しようとする意欲に満ちている時期。」

中には遥か昔のことで忘れてしまったと仰りながら、味わい深い文章を真剣にまとめてくださった神学生もおられます。年齢と共に青年と話すことを恐れ、距離を置いていたという方が、現場で待つ青年に意欲的に近づくと改めて決意された証を聞き、感謝しました。

◆新年度の歩みが始まり

心を新たに

短期コース　高木暁子（さとこ）

新年度を迎えて、4月1日　入学式をして頂きました。昨年の9月より、これまでの半年を振り返り、讃美歌の如く〝数えよひとつずつ　数えてみよ主の恵み〟と心新たに、先生方、兄弟姉妹方より多くの励ましの言葉とお祈りに支えられて参りましたことを心より感謝致します。

新年聖句として示されたみことば、第二テモテ二・15を心に留めて、授業に臨む時、教会実習に臨む時、いつも主の前に　どのような者であるかを探って頂き、主よりの語りかけをしっかりとキャッチしていきたいと願う者です。

今、一番感謝だなあと感じる事は、主が、こんな私を召して下さった！と今も変わらずに確信が持てる事です。それも、この春ではなくて……あの秋に（周りの事どもが動き出す前に）まさに、「神のなさる事は、すべて時にかなって美しい」ですね……と頷きが与えられていることは、なんと幸いでしょう。

もう一つ感謝な事は、信徒から神学生へと意識が変えられたことです。年齢を重ね信徒の日々が余りにも長く本人が一番驚いていた訳ですが、明確に変化を自覚させて頂きました。見た目には、今までと変わらない奉仕も多いのですが、主が助けて下さることと多くのお祈りに支えられていることを実感しながら奉仕に当たらせて頂く幸いを味わうようになりました。これから始まる学びの中でも、もっと多くの事に気づかせて頂き、主のお約束の素晴しさに圧倒される事でしょう。主の恵みと憐れみの中で培われた信仰の裏付けを教えられ易い心で受け止めたく待ち望んでいます。

今後とも背後のお祈りをよろしくお願い致します。

「志の堅固な者を、あなたは全き平安のうちに守られます。その人が、あなたに信頼しているからです。」（イザヤ二六・3）

◆新年度の歩みが始まり

主に従う者として

聴講生　額田　昭

「あなたは、わたしに従いなさい。」（ヨハネ二一・22）

信徒伝道者として2009年秋から、年に一度の神学院における「スクーリング」は大変貴重な経験でありましたが、この場所でより多くの「学びと訓練」に与ることができればと思っておりました。

年を重ねた者ですが、主は、残りの生涯の在り方について、セレブレーション・オブ・ラブ等々への参加を通して豊かな取り扱いを与えてくださり、昨年末（2015年12月）のリトリートにも出席するようにとの促しもいただきました。そして、このリトリートにおいて主は冒頭のお言葉をくださいました。加えて、主任牧師はじめ、牧師先生方の大変懇ろなご指導・お取り扱い・お祈りをいただきました。

入学願書に署名・捺印することには、一日、主の前に祈りの時が必要でありましたが、この時も主がはたらいてくださり、書類を整えることができました。入学審査を経て神学生（聴講生）として入学へと導かれました。主が、残りの生涯を「5000人の給食」の記事を引用して祝福し、励ましてくださったことは大きな喜びでした。

入学式愛餐会のあと　本館玄関の前で

神学院におきましては、院長先生はじめ、教授の先生方から多くのご指導を受けられること。また在校生との交わりによって良き感化をいただいていること。多くの蔵書のある図書館を自由に利用できること。司書の先生方からの示唆に富んだご指導もいただけること等、口を大きく開ければそれを満たして下さるとの肯きを与えられております。

主が、小生に最善をしてくださっていることを受け止めながら「主に従って行く者として整えられたい。」と願っております。

◆新年度の歩みが始まり

主から目を離さずに

正規コース　松尾信子

主の恵みにより、神学院における学び（インターン実習を除くと）が、3年目、締めくくりに入りました。日頃のお祈りに心から感謝いたします。

2年間の主の御助けを感謝すると同時に、3年目を迎えるにあたり、段々と心が落ち着かない状態になっています。特に、将来に対して色々な事を思い、誰も負わせていない重荷を自分で作って、背負っているように思います。頭では、そんな重荷は背負わなくて良いと分かっていても、簡単には、取り除かれません。この年は「ゆだねる」ことを学ぶ一年になると感じています。詩篇の数々の祈りと叫びが、そのまま私の祈りとなって主に助けを頂く日々であります。また、自分だけが助けを求めているような祈りではなく、周りの方々のために切に祈りたいと願っています。

多くの信仰の先輩方が与えられていますが、先輩方のお話しを聞く機会が与えられる時に、本当に明るく活き活きと輝いている姿をお見受けします。私よりも人生経験がはるかにあり、多くの痛み、悲しみを通っていらっしゃる方々なのに、と思います。その人のお人柄だけではないものを頂きたいと切に願うものです。

今年、個人に頂いた年頭聖句が、ヘブル人への手紙十二章2節でしたが、その前の章から節にかけては、信仰の先達たちの事が書かれています。彼らは、主から目を離さない歩みを体験的にとらえています。そして、何より主ご自身がその信仰を歩まれました。足りないところに目を向けるのではなく、イエスさまに目を向け、ゆだねて、歩み続けたいと願っています。

「信仰の創始者であり完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。」（ヘブル一二・2）

私の神学生時代

私と神学院生活

6期生●碓井秀司

キリスト教とは、縁もゆかりもなかった者が、興味半分で教会に行き、キリストとの出会いを経験したことによって、喜びの人生に変えられた。しかし、伝道者になることはできないと思っていた。けれども、自己中心的な願いを捨てて、神のみこころを求めた時、神の召命を確信させられた（詩篇一三九・5）。受洗から1年半ぐらいのことだった。それで予科性として、神学院に入学し、4年間の学院生活を送った。

その中で私に、まず言われたことは「聖書を読む」ことだった。それは、まだ聖書を完読したことがなかったからである。

それで一生懸命に、聖書通読をした。重要なみ言葉には、色鉛筆で赤や青の線を引いて、覚えるようにした。もちろん、他の神学生も、みな行なっていたことであるが、信仰生活の短かった私には、特に必要なこととして言われたのである。

当時、「丸ノ内教会」の礼拝に出席していたが、「電車の中で、胸ポケットに赤鉛筆を差しているのは、BTCの神学生（男子）とギャンブルに行くおじさんたちだ」と言われた。ともあれ、聖書を読むことに励んだ。

「聖書が、おいしくなるようにならなければ……」と言われたが、それが分かってきたのは、だいぶ後年になってからであった。

もうひとつは、「祈ること」であった。朝は密室祈祷か、早天祈祷会が、また月曜夜には、院長の蔦田二雄先生が指導して、半徹夜の祈祷会が行われた。主の御前に心を注ぎ出して祈ることを学んだ貴重な経験だった。

そして信仰と祈りによって、広い土地が購入され、学院本館が建てられていく様子を目の当たりにした。信仰による祈りの実物教訓であった。このようにして、祈りの訓練されたことは、大きな特権であった。

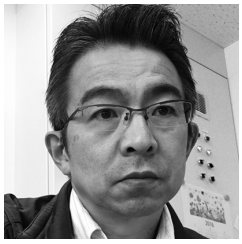
また聖日夜には、近隣の教会にミッションに遣わされ、「実践伝道」を学んだ。

神学院での学びは、私の伝道者生涯の基本となることを、しっかりと教えてくれたものだった。それで、足りない奉仕であったが、55年間に亘る奉仕を終えることができた。ただ感謝あるのみ。

同窓生の近況

37期生

松江教会●南場安正



近況を、と聞かれると、反射的に「忙しい」と返してしまいます。教会の奉仕と共に、併設された保育所とセットで日々働いています。

保育園では、百名余の園児とその家族への伝道と、児童福祉施設、事業所としての運営管理全般の責任を担います。牧師がこの任にあたることが、先代・南場秋子先生から継承したスタイルです。先生は、経験も知識も資格もない私に「死に至るまで忠実でありなさい」（黙示二・10）との御言葉を遺して逝かれました。

卒業から松江で27年。見えるところでは、教会は会堂を頂き（2005年）、開設以来の保育園舎も昨年建替えを果たしました。過ぎた年月を思い返すと、只々主の大きな憐れみに感謝が溢れます。

一方で、時に松江教会特有の在り方の是非までも自らに問いながら、この群れの謂う「綜合」とは何だろうという思いを重ねてきたかなと振り返ります。

最大の課題は、同労者、後継者の発掘と育成です。そのための祈祷会を、妻と二人で始めました。

神学院スタッフ…恵みの想起

チャペルの恵み

経理課　渡辺真理

新年度が始まり、私は授業の間に持たれるチャペルの時へ、支障がない限り出席しております。現在は神学生もみことばを取り次いでくださり、私はとても厳粛な思いで拝聴しております。

昼食前の時間帯ですが、朝の密室とは違う大きな恵みがチャペルにはあります。それは午前の営みを顧み、午後への活力を頂く時間です。神学生時代とは違う、とても心地良い時間となっています。これもスタッフの特権であり、新年度に入ってから実感している今日この頃です。

「しかし私にとっては、神の近くにいることが、しあわせなのです。私は、神なる主を私の避け所とし、あなたのすべてのみわざを語り告げましょう。」（詩篇七三・28）

学苑だより

●5月は一週目がゴールデン・ウィークで休講になります。

●5月17日は、神学院創立記念日です。67年間の主の恵みを感謝する月としたいと思います。

●BTCサポート、そして神学院献金への加入を心から感謝致します。年会では、サポーターの皆さまとのつながりを密にすることを目指して、BTC後援会構想が提案されました。後援会構想は、信徒の皆さまの視点がとても大切だと考えています。

●本誌の後援会構想についてのご報告もぜひお読みくださり、お祈りください。

●5月12日（木）の教師会の日に、長年、神学院で教鞭を執ってくださったザークル先生の特別チャペルが行われます。ここまでのご奉仕に心から感謝致します。

●5月の神学院祈り会は10日（火）・午後6時からです。

サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げつつ、3月の会計報告をさせて頂きます。

3月分支援実状
〔今年度毎月献金目標〕
￥2,000,000

教会員による
「神学院サポート献金」
￥546,850
教会団体による「神学院献金」
￥605,040
合計￥1,151,890

その他の献金（一時・特別）
￥222,250

・振替：00230-0-10138

公報

本部通達

「炎のような分かれた舌が現れて、ひとりひとりの上にとどまった。すると、みなが聖霊に満たされ、御霊が話させてくださるとおりに、他国のことばで話しだした。」（使徒の働き二・3～4）

今月15日には意義深いペンテコステの聖日を迎えます。ひとりひとりがキリストの証人として御霊に満たされ、御霊に導かれるなかで、各地で行われる伝道の働きが祝されますように祈ります。

■本　部

〈公告〉

単位法人教会でない教会で、希望する教会に対して、会堂建設に関わる銀行融資の残債を教団が一括返済し、教会は教団に対して返済することを認めます。なお、対象教会は木更津教会、白鳥教会、湘南中央教会、久留米教会です。

2016年2月2日

イムマヌエル綜合伝道団

責任役員会

〈会議〉

10日（火）女性牧師ホーム委員会

16日（月）～17日（火）

教団運営委員会（人事委員会）

24日（火）人権委員会

■総務局

教職按手礼試験の希望者は、6月末までに総務局へ申請書の提出をお願いします。ご相談は各地域担当ブロック・アドバイザーまで。

■国内教会局

〈会議〉

16日（月）国内教会局運営委員会

〈教区会〉

9日（月）～10日（火）中国教区

10日（月）～11日（火）北海道教区

■世界宣教局

〈会議〉24日（火）

世界宣教局運営委員会・局員会

▽ザンビアの根廻恵子宣教師は一年間の巡回報告を終え、5月27日にザンビアに再赴任の予定です。

▽同日27日には、蔦田緑乃宣教師がカンボジアに向けて出発の予定です。カンボジアの滞在は三か月ほどの予定です。

▽フィリピンの豊田宣教師は、宣教車の買い換えが必要となっている由、お祈りください。宣教車のための指定献金を受け付けますので、ご協力をお願い致します。

▽局主催の台湾宣教訪問団の募集は先月末で締め切られましたが、教会・教区単位での申し込みは随時受け付けていますので、世界宣教局までご連絡ください。

《IWF関係》

〈会議〉

10日（火）　IWF理事会

■教育局

〈会議〉

9日（月）教育局運営委員会

10日（火）全国壮年部運営委員会

24日（火）教会学校部部会

《JEA関係》

東日本大震災から5周年を迎えるにあたり、「東日本大震災から学んだこと・今後への指針」をDRCnet（災害救援キリスト者連絡会・会長＝中台孝雄師）がまとめました。被災地支援の現場から得た教訓を、現地教会と外からの支援ネットワークの視点から述べ、災害に備える具体的な提言も掲載しています。貴重な経験を将来の災害に備えて生かすためにご活用ください。以下のリンクからお読みください。

http://drcnet.jp/lessons_from_311_disaster_and_guidelines_for_future/

《JHA関係》

▽第9回北海道聖化大会

日時・5月17日（火）～18日（水）

講師・錦織寛師

会場・北海道クリスチャンセンター

▽第70回ジョン・ウェスレーに学ぶ会（大阪）

日時・5月24日（火）

講師・植木英次師・昌恵師

会場・救世軍セントラルホール

▽第20回栃木聖化大会

日時・5月22日（日）

講師・中島秀一師

会場・日本ホーリネス宇都宮教会

▽第9回四国聖化大会

日時・5月29日（日）

講師・朝比奈悦也師

会場・希望館チャペル

▽第12回関東JHA青年大会

日時・5月29日（日）

会場・チャーチ・オブ・ゴッド川崎教会

講師・田辺岩雄師

■聖宣神学院

▽新入生紹介

額田　昭兄（イムマヌエル船橋教会、聴講）

高木暁子姉（イムマヌエル聖宣神学院教会、短期コース）～2015年秋合格

▽今年度前期の教会実習　受け入れ教会に感謝致します。

戸塚雅昭兄　高津教会

松尾信子姉　大宮教会

大塚千穂子姉　白鳥教会

金成星美姉　東京フリー・メソジスト桜ヶ丘教会

大谷のぞみ姉　市川教会

高木暁子姉　聖宣神学院教会

▽神学院祈り会（国内教会局共催）

5月10日（火）午後6時・本部会議室

今月はGWで一週遅くなります。メッセージは国内教会局から熊谷邦男先生です。

▽12日（木）春の教師会（正午から、聖宣神学院）

その前にザークル先生の最終チャペルがあります。

▽17日は聖宣神学院創立記念日

15日、22日、29日に特別教会実習を行います。

▽創立記念日感謝献金　ご協力をお願い致します。

▽信徒土曜講座開講

【春学期】

福音の真理に固く立つ（岩上敬人先生）5月14日開講・8回

神さまってどういう方？（河村従彦先生）7月16日開講・短期集中3回

【秋学期】

主に喜ばれる結婚とは（内山勝先生）10月15日開講・4回分を2日で受講

聖書的カウンセリング・初級（河村従彦先生）12月17日開講・短期集中3回

受講を希望される方は、今からでもお申込みください。

■出版事業部

〈会議〉

6日（金）出版事業部常勤局員会

▽定期刊行物の発送は現在、大阪にある教会関係の福祉作業所に委託しています。部数の間違い、梱包等に関してお気づきの点などありましたら、出版事業部までお知らせください。

消息報告

▼今井隆司師・由美子師（那覇教会）は、那覇教会内に転居されました。今後の連絡は教会宛にお願いします。

▼平瀬聡樹師（山口教会）のご住所・連絡先は、新会堂完成予定の10月頃まで、左記になります。

〒754-0004　山口市小郡金堀町32―5

電話083（902）6125

▼去る3月25日（金）に、徳竹憲子師（湘南中央教会）のお母様、萩元知世姉が召天され、大宮教会で葬儀が営まれました。ご遺族に上よりの豊かなお慰めをお祈りします。

発行人　藤本　満　編集者　北田直人
発行所　東京都千代田区神田駿河台二―一　印刷所　埼玉県比企郡鳩山町熊井一七〇　OCCビル　イムマヌエル綜合伝道団本部
新生宣教団　定価　一部一〇〇円（税込）
郵便振替　00110・7・133609